

科目名		建築総合実習			
担当教員	平原 茂		実務授業の有無	○	
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方		・1年時に学んだ製図の知識を活用し、自分で考えた空間を創り上げます。ここでは実際の競技設計を念頭にアイデアを形にまとめることを学びます。			
学習目標 (到達目標)		・1年時に学んだ製図の知識を活用し、自分で考えた空間を創り上げます。ここでは実際の競技設計を念頭にアイデアを形にまとめることを学びます。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①初めて学ぶ建築コンペ・卒業設計 (学芸出版)			
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	建築コンペとは ①課題を分析しコンセプトを検討、 ②具体的な課題を提案するプロセス。	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①～②の項目を理解し適正に作業できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
2	課題の分析 ①課題を分析し出題の趣旨の解釈。	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①の項目を理解し適正に分析・解釈できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
3	方向性の検討 ①条件を整理と設計の方向性	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①の項目を理解し適正に整理できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
4	コンセプトの設定のプロセス ①方向性の確認とコンセプト設定 ②サブタイトルの設定 ③コンセプトと設計方針の発表	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①の項目を理解し適正にコンセプトの設定ができる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
5	エスキースのプロセスと作成 ①イメージを形にする方法 ②ひらめきの記録：思い付きのスケッチ ③イメージの具体化：敷地を設定しイメージの具体化	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①の項目を理解し適正にイメージの具現化ができる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
6	図面の作成 ①エスキースを基に図面を作成。 ②各種図面の表現方法	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①の項目を理解し適正にエスキースと図面化ができる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
7	作品の発表 ①完成した作品のプレゼンテーション	完成した作品をみんなの前でプレゼンテーションする。 講評・解説			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期限内提出を前提とし、コンセプトの優劣、図面表現力、プレゼンテーションや平常点を含め総合的に評価します。 コンセプト30%、表現力30%、コンセプトの実現度20%、プレゼンテーション10% 授業態度10%		設計とは自分の頭の中にあるイメージを手を動かして形にすることです。漠然としたイメージが最終的に形になるその面白さを経験してみてください。 漠然としたイメージを、形にしていくために、企画背景や情報分析も重要な要素になっています。また、論理性や計画性、そしてプレゼンテーション力のスキルも必要となります。物事を整理する力をつけることを習慣化させることがこの実習のポイントでもある。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。					
実務経験教員の経歴 建築設計・監理業務に43年携わる					

科目名		建築総合実習			
担当教員	平原 茂		実務授業の有無	○	
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	96時間
授業概要、目的、授業の進め方		コンペ課題を用い、建築物及び建築空間の設計スキルを身に付けるとともに、効果的なプレゼンテーション技術の習得をする。 1. 課題分析→イメージ選別を繰り返し行い、課題の要求に即したイメージ作成を行う。 2. プレゼンボードを効果的に見せる事を意識しながら、イメージを具現化する。 3. プレゼンの練習を行いながら、プレゼン資料の見直し・修正を行い効果的なプレゼンボードの作成及びプレゼンテーションを行う。			
学習目標 (到達目標)		前期で学習した建築コンペのプロセス、プレゼンテーションをする力を向上する。 今まで学習した知識を活かし、空間をデザインする力を習得する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		初めて学ぶ 建築コンペ・卒業設計 (学芸出版)			
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	課題の発表 ①設計のプロセスの確認 ②適切な工程表を作成することができる	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①～②の項目を理解し適正に作業できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
2	課題の分析 ①課題分析の意義 ②課題の分析の手法と分析	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①～②の項目を理解し適正に作業できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
3	エスキース ①条件整理 ②ひらめきとイメージ作り ③イメージの具体化 ④イメージを形にする	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①～④の項目を理解し適正に作業できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
4	コンテンツの作り込み ①図面、パース等の正しい作り込み	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①の項目を理解し適正に作業できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
5	設計主旨のまとめ方 ①設計主旨と要点	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①の項目を理解し適正に作業できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
6	パネルのまとめ方 ①必要なコンテンツを正しく選択することができる ②分かりやすく印象的なレイアウトでまとめることができる ③作品を正しく理解し、課題に沿った説明をすることができる	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①の項目を理解し適正に作業できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
7	図面のプレゼンテーション ①分かりやすく印象的なプレゼンテーション資料の作成 ②分かりやすく印象的なプレゼンテーションを行う	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、建築コンペのための課題演習。 ①の項目を理解し適正に作業できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の情報収集			
8	発表会	①全員で発表会を実施し、準備したことを表現することができる ②他作品を評価することができる			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
評価方法は下記の割合で評価しますが、期限内に提出がないものは評価なしとなります。 課題の評価50% 発表30% 授業態度20%		設計とは自分の頭の中にあるイメージを手を動かして形にすることです。漠然としたイメージが最終的に形になるその面白さを経験してみてください。 漠然としたイメージを、形にしていくために、企画背景や情報分析も重要な要素になっています。また、論理性や計画性、そしてプレゼンテーション力のスキルも必要となります。物事を整理する力をつけることを習慣化させることがこの実習のポイントでもある。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。					
実務経験教員の経歴 建築設計・監理業務に43年携わる					